記　入　日　　2012 年　1 月　15 日

1．概　要

実践団体名	気仙沼市立階上中学校		
連絡先	0226-27-2304		
プランタイトル	「私たちは未来の防災戦士」 ～「自助」「自助・共助」「自助・公助」の学びと「つながり」の大切さを通して～		
プランの対象者※1	中学生	**対象とする災害種別**※2	津波

※1　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※2　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

○「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習
　→東日本大震災による被災の反省から，正しい知識や十分な備え，日頃の訓練の充実を図る。
○「自助」を基盤にした「共助」への取組
　→小学生に出前授業を行ったり，一緒に避難所設営訓練をしたりするなど防災啓発活動を行うと共に，階上中学校区防災教育推進委員会による各自治会との合同一次避難訓練を実施する。

【プランの概要】

○仮設住宅居住者との合同避難訓練【自助・共助】
○ショート避難訓練　【自助】
○学年毎防災体験活動　【自助・共助】
○各自治会との合同一次避難訓練　【共助】
○避難所設営訓練　【共助】
○防災学習発表会　【自助・共助】
○防災マップの作成　【自助・共助】

【期待される効果・ここがおすすめ！】

○学年毎の防災体験活動やショート避難訓練，各自治会との合同一次避難訓練を通して津波への正しい知識や脅威，地域における過去の災害の歴史を学び，災害発生時の正しい対応行動を身に付けることができる。
○仮設住宅居住者との合同避難訓練や各自治会との一次避難訓練，総合的な学習の時間での避難所設営訓練を通して地域を知ると共に，災害発生時の実態に応じた対応行動をはじめ相互扶助の精神の大切さを学ぶことができる。
○防災学習発表会や防災マップの作成・配布を通して，「震災を風化させてはいけない」というメッセージを地域に送り，各家庭や地域住民の防災意識の高揚を図ることができる。

２．プランの年間活動記録（2012 年）

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	・職員へ本年度の防災学習計画の提示		
5 月	・仮設住宅居住者との合同避難訓練計画の提示		
6 月		・「階上中学校区防災教育推進委員会」発足に向けた会議（学校・地域のリーダーによる）	○仮設住宅居住者との合同避難訓練
7 月	・学年毎防災体験活動, 防災マップ作成計画等の提示		
8 月		・第１回階上中学校区防災教育推進委員会（一次避難訓練計画等）	
9 月	・各自治会による一次避難訓練計画等の調整・提示	・職員研修会（地区の避難場所や避難経路の確認）	○防災学習ガイダンス ○学年毎防災体験活動 ○ショート避難訓練（～３月まで）
10 月	・避難所設営訓練計画等の提示	・第２回階上中学校区防災教育推進委員会（一次避難訓練の検証・反省）	○各自治会との合同一次避難訓練 ○防災マップ作成・配布（～１月まで）
11 月	・防災学習発表会計画等の提示	・職員研修会（備蓄物品の確認）	○生徒会各種委員会の役割分担と避難所設営訓練
12 月		第３回階上中学校区防災教育推進委員会（発表会の見学）	○防災学習発表会
1 月			
2 月			
3 月			

３．実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：　①　】※3

タイトル	仮設住宅居住者との合同避難訓練
実施月日（曜日）	平成 24 年 6 月 7 日（木）
実施場所	気仙沼市立階上中学校（テニスコート～校舎裏高台）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：熊谷順一 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	１コマ×５０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	・大地震発生により，敏速・沈着・協力的な態度で行動することの必要性について体験を通して理解させる。 ・大津波を想定し，二次避難の判断・行動を実践させる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	１４：２０　緊急地震速報→テニスコートへ避難，人員確認（中学生，仮設住宅居住者等） １４：３２　大津波警報発表→校舎裏高台へ二次避難（中学生，仮設住宅居住者等） １４：４３　校舎裏高台（二次避難場所）へ避難完了，人員確認 １４：５６　全体指導・講評
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	緊急地震速報，ハンドマイク，救護旗，救護セットなど
参加人数	約２００人（中学生，仮設住宅居住者と地域住民）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・緊急地震速報を活用して地震発生を想定し，生徒は身を守る避難行動をとることができた。 ・中学生が高齢者を気遣いながら二次避難するなど，共に助け合う姿が見られた。 【課題】 ・休日や夜間の避難訓練や要援護者への対応を，しっかりと考える必要がある。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　②　】※3

タイトル	学年毎防災体験活動（1 年生：津波体験館見学）
実施月日（曜日）	平成 24 年 9 月 27 日（木）
実施場所	唐桑半島ビジターセンター
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：小松勇次　氏 所属・役職等：唐桑半島ビジターセンター・津波体験館館長 担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：遠藤一洋 所属・役職等：教諭（防災担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	５コマ×５０分
プログラムの　カテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	・津波発生のメカニズムや発生に備えた対応，過去の津波被害の歴史などについて正しい知識を得る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	９月２６日（水）津波体験館見学に向けた事前学習（１コマ） ９月２７日（木）津波体験館での研修（４コマ） ・津波体験 ・講話：東日本大震災を経験して ・津波のメカニズムや脅威，歴史調査 ・まとめ活動
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・講師：唐桑半島ビジターセンター・津波体験館館長　小松勇次　氏 ・道具：筆記用具等
参加人数	４１人（中学１年生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・津波発生のメカニズムや発生に備えた対応，過去の気仙沼市の津波被害の歴史などについて正しい知識を得ることができた。 【課題】 ・津波体験において一部の生徒に PTSD が見られた。心のケアに十分に配慮しながら学習を進める必要がある。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　③　】※3

タイトル	学年毎防災体験活動（2 年生：応急手当・救命講習会）
実施月日（曜日）	平成 24 年 9 月 27 日（木）
実施場所	気仙沼市立階上中学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：髙橋　優 所属・役職等：教諭（防災担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	５コマ×５０分
プログラムの　カテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	技術を身に付ける
達成目標	・災害発生時後の人命救助に備え，応急手当法や心肺蘇生法，ＡＥＤの使い方などを学び，その技能を身に付ける。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	９月２６日（水）応急手当や救命法についての事前学習（１コマ） ９月２７日（木）応急手当・救命講習会（４コマ） ・応急手当法 ・救命法（含 AED の使い方） ・まとめ活動
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・講師：気仙沼消防署職員（６名） ・道具：ハンカチ，タオル，AED，筆記用具など
参加人数	３９人（中学２年生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・災害発生時後の人命救助に備え，応急手当法や心肺蘇生法，ＡＥＤの使い方などを学び，その技能を身に付けることができた。 【課題】 ・継続的な学習による知識，技能の定着が必要である。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　④　】※3

タイトル	学年毎防災体験活動（3 年生：小学生への防災啓発活動）
実施月日（曜日）	平成 24 年 9 月 27 日（木）
実施場所	気仙沼市立階上小学校教室および体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：戸羽康幸 所属・役職等：教諭（防災担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	５コマ×５０分
プログラムの　カテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	・階上中学校の防災学習の発表や防災カルタ遊び，紙芝居などを通して，災害や災害発生時の対応について小学生の正しい知識や理解を深める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	９月２６日（水）防災啓発活動（出前授業）の準備（２コマ） ９月２７日（木）小学生への防災啓発活動（３コマ） ・階上中学校の防災学習について ・防災カルタ遊び，紙芝居，塗り絵 ・まとめ活動
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・オリジナル防災カルタ，紙芝居「稲村の火」など
参加人数	約２１０人（中学３年生，階上小１年～4 年生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・階上中学校の防災学習の発表や防災カルタ遊び，紙芝居などを通して，災害や災害発生時の対応について小学生の正しい知識や理解を深めることができた。 【課題】 ・防災について小学生に分かりやすく楽しい活動を今後も様々な形で考え，実践していく必要がある。
成果物	・オリジナル防災カルタ

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　⑤　】※3

タイトル	ショート避難訓練（～３月まで）
実施月日（曜日）	9 月～3 月（不定期）
実施場所	気仙沼市立階上中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：熊谷順一 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	約５分
プログラムの　カテゴリ、形式※4	その他学校内での時間
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	・地震発生時または緊急地震速報が流れた時に，「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」を頭に入れて自分の身を守る対応行動をとることができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・授業時間や休み時間，清掃時間や部活動時間などに予告をせず緊急地震速報を流す。生徒は，その場の状況に応じて身の安全を確保する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・緊急地震速報，コンパクトメガホンなど
参加人数	１３０人（中学生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・地震発生時または緊急地震速報が流れた時に，その場の状況に応じて「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」を頭に入れ，自分の身を守る対応行動をとることができるようになった。 【課題】 ・突然の緊急地震速報に PTSD など生徒の心のケアに配慮する必要がある。また，清掃時や部活動時などパターンや時期を変えながら実施することで，マンネリ化の防止が必要である。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　⑥　】※3

タイトル	中学生と各自治会との合同避難訓練
実施月日（曜日）	平成 24 年 10 月 6 日（土）
実施場所	気仙沼市階上地区全域
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：熊谷順一 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	４コマ×５０分
プログラムの　カテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	各自治会との一次避難訓練を通して地域を知り，避難体制等を確認する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	各自治会（１１地区）で一次避難訓練および訓練後の防災研修会を企画し，実践した。 長磯原地区の例：①防災無線「訓練，地震発生」のアナウンス ②一次避難（避難場所，掲示板，所要時間の確認） ③避難者リスト作成（地区の中学生が担当） ④避難者一覧表の掲示（地区の中学生が担当） ⑤簡易担架作成，消火器操作講習会 ⑥非常持ち出し袋の確認・情報交換 ⑦自治会長による講話　など
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材：各自治会の会長ほか ・道具：コンパクトメガホン，非常持ち出し袋，毛布，ブルーシート，救護セットなど
参加人数	約７００人（中学生，階上地区住民）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・地区を知り，地区全体の防災意識を高め，避難体制の確認をすることができた。特に中学生が避難者カードをまとめ，避難者の掌握に熱心に取り組むことができた。 【課題】 ・要援護者への対応や地域の風化防止対策について考える必要がある。また，防災無線が聞こえない箇所があったので，気仙沼市へ要望した。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　⑦　】※3

タイトル	防災マップ作成・配布
実施月日（曜日）	平成 24 年 10 月 6 日（土），11 月 7 日（水），平成 25 年 1 月 22 日（火）
実施場所	気仙沼市立階上中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：熊谷順一 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	５コマ×５０分
プログラムの　カテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	・防災マップの作成を通して，自宅や地区の標高や危険箇所，避難経路などを確認する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	10 月 6 日（土）各地区下書き作成（２コマ） 11 月 7 日（水）防災委員会による校正作業（１コマ） １月 22 日（火）各自仕上げ作業（２コマ）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ゼンリン株式会社仙台支社 ・「標高が分かる Web 地図」（国土地理院），気仙沼市防災マップ，色鉛筆，シールなど
参加人数	１３０人（中学生）
経費の総額・内訳概要	150,000 円（制作費：149,940 円，通信費［切手代］：60 円）
成果と課題	【成果】 ・防災マップ作成を通して，自宅や身近な場所等の標高や危険箇所，正しい避難経路等について確認し，家庭で災害時の避難行動について話し合うことができた。 【課題】 ・時間が経つことで変化する地区の状況に応じた防災マップを，今後も作成することとそのための資金が必要である。
成果物	階上中学校　防災マップ（平成 24 年度 12 月）

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　⑧　】※3

タイトル	避難所設営訓練（小学校・中学校合同）
実施月日（曜日）	平成 24 年 11 月 9 日（金）
実施場所	気仙沼市立階上中学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：熊谷順一 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	８コマ×５０分
プログラムの　カテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	・避難所開設の初期対応に必要な事柄や役割などについて考えさせ，ロールプレイを通して実践し，理解を深めさせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	平成 24 年 11 月 6 日（火）避難所設営訓練ガイダンス（１コマ） 平成 24 年 11 月 7 日（水）事前準備（１コマ） 平成 24 年 11 月 9 日（金）避難所設営訓練（６コマ） 生徒会総務：避難所本部，運営委員会：地区割り作業 生活委員会：避難者一覧表の作成，厚生委員会：救護スペース作成， 緑化委員会：避難スペースの作成，広報委員会：掲示板の作成， 図書委員会：要援護者スペースの作成，福祉委員会：物資の配給， 防災委員会：物資の準備，無所属・小学生：地区住民役など
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・コンパクトメガホン，紙，マジックペン，ダンボール，畳，毛布，新聞紙，救護セット，卓球台，長テーブル，パイプ椅子，水（ペットボトル）など
参加人数	約２００人（中学生，階上小５～６年生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・シナリオのない中で，生徒会総務を中心に次々に与えられる条件に臨機応変に対応しながら，避難所開設に必要な事柄や役割に取り組むことができた。 【課題】 ・混雑した状況ではコンパクトメガホンを使ってもよく聞こえないことや避難者カードを一覧にする作業に時間がかかることなど，実際場面に応じた工夫が必要であることが分かった。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　⑨　】※3

タイトル	防災学習発表会
実施月日（曜日）	平成 24 年 12 月 4 日（火）
実施場所	気仙沼市立階上中学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：熊谷順一 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	７コマ×５０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	・学んできた防災学習をまとめ，発表を通して自分たち自身をはじめ家庭や地域の更なる防災意識の高揚を図る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	平成 24 年 11 月 15 日（木）：防災学習発表会ガイダンス（１コマ） ○学年毎防災体験活動セクション ○各自治会による一次避難訓練セクション ○避難所設営訓練セクション ○防災委員会による発表 平成 24 年 11 月 22 日（木）：各担当者による準備①（１コマ） 平成 24 年 11 月 30 日（金）：各担当者による準備②（１コマ） 平成 24 年 12 月 3 日（月）：防災学習発表会リハーサル（２コマ） 平成 24 年 12 月 4 日（火）：防災学習発表会（２コマ）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・プレゼンテーションソフト，プロジェクター，オリジナル防災カルタ，紙芝居などの小道具（演劇による発表用）
参加人数	約２２０人（中学生，階上中学校 PTA，階上中学校区防災教育推進委員会委員，仮設住宅居住者，地域住民など）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・学んできた防災学習をまとめ，発表することを通して家庭や地域の更なる防災意識を高め，風化防止に効果的であった。 【課題】 ・保護者や階上中学校区防災委員会，地域住民だけではなく，気仙沼市の多くの住民に参加してもらうことで，更なる防災意識の高揚と風化防止の波及につながることと感じる。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

４．苦労した点・工夫した点

プランの立案と調整で苦労した点工夫した点	○東日本大震災による被災経験から本校生徒や卒業生，地域住民にアンケートをとりながら，これまでの防災学習の反省点をまとめた。その結果，「自助」を基盤とした防災学習，「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習の必要性に気づき，防災教育計画を改善した。 ○「R→P→D→C→A」を軸に学校と地域が一緒になって防災に取り組み，活動を継続することができれば， ①夜間や休日など，いつ，どこで発生するか分からない災害時にもスムーズな連携活動ができる。 ②子どもから高齢者までの異年齢集団で防災体験活動（訓練）を推進することで，生徒にも地域住民としての自覚や連帯感が生まれ，互いに気にかけたり助け合ったりする集団ができる。 ③学校を含めた地域全体で継続的な防災活動に取り組むことで地域全体の防災意識を高揚させることだけでなく，震災体験の風化防止にもつなげることができる。 と考えた。 ○「今，中学生としてできることは何か」，そして「将来の防災リーダーとしてできることは何か」という視点のもとで，防災教育の計画を立てた。
準備活動で苦労した点工夫した点	○本校職員の共通理解を図るために，防災主任を中心とした防災担当組織をつくり，事前打合せを綿密に行いながら防災教育に取り組んだ。 ○生活アンケートや震災アンケート等を実施するなど，生徒の心のケアに十分配慮しながら防災学習に取り組ませることができた。 ○階上中学校区防災教育推進委員会を立ち上げ，地域と共に防災について考え，避難訓練等を企画・実践することで，学校と地域が一緒になって防災に取り組み，活動することができた。 ○様々な活動場面の一部ではあるが，活動資金の調達が課題であった。
実践に当たって苦労した点工夫した点	○既存の生徒会組織を活用し緊急時の役割を明確にしたことで，生徒の自主性や率先して行動したり臨機応変に対応することができたなど，実効性のある訓練を実施することができた。 ○地域住民との共通理解を図るために，自治会長連絡協議会等に積極的に参加し，本校の防災教育の主旨や計画の理解に努めた。 ○多くの関係機関との連携を密に図ることで訓練が一層充実するため，今後もしっかりと「報告・連絡・相談」の充実を図っていきたい。 ○避難訓練を土日に実施するなどして地域の若者の参加を促したが，仕事の関係で不参加となった方が多かったことや要援護者への対応，車を使用した避難の在り方などについて今後も各自治会との連携を密にしながら工夫していく必要がある。

５．他の団体、地域との連携

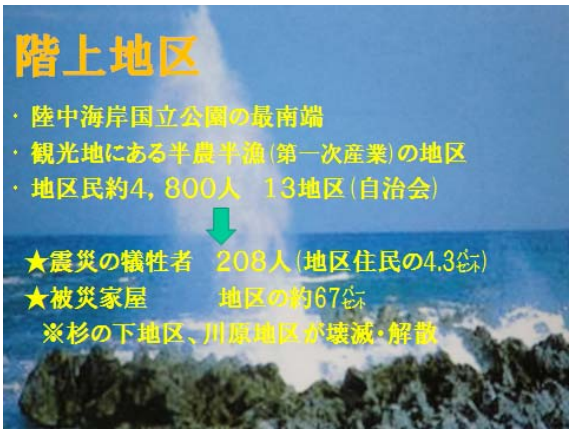
協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	・気仙沼市教育委員会 ・階上小学校 ・階上中学校同窓会	・学年毎防災体験活動（３年生：小学生への防災啓発活動［出前授業］） ・各自治会との合同一次避難訓練 ・避難所設営訓練 ・防災マップ作成・配布
保護者・ＰＴＡの組織	・階上中学校 PTA ・階上小学校 PTA	・各自治会との合同一次避難訓練 ・防災学習発表会 ・防災マップ作成・配布
地域組織	・階上中学校区防災教育推進委員会 ・階上地区自治会長連絡協議会 ・階上振興協議会 ・階上公民館 ・階上駐在所 ・階上防犯協会 ・階上地区婦人防火クラブ ・階上地区ボランティアクラブ ・気仙沼消防団第７分団 ・気仙沼消防後援会第７支部	・各自治会との合同一次避難訓練 ・防災学習発表会 ・防災マップ作成・配布
国・地方公共団体・公共施設	・宮城県危機管理課 ・気仙沼市役所総務部危機管理課 ・気仙沼市消防署	・学年毎防災体験活動（２年生：応急手当・救命講習会） ・各自治会との合同一次避難訓練 ・防災学習発表会 ・防災マップ作成・配布
企業・産業関連の組合等	・唐桑ビジターセンター・津波体験館 ・ゼンリン株式会社仙台支社	・学年毎防災体験活動（１年生：津波体験館見学） ・防災マップ作成・配布
ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等		
職業、職能団体・学術組織、学会等		

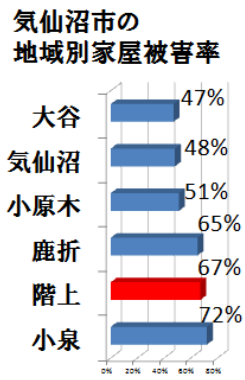
６．成果と課題（実践したプラン全般について）

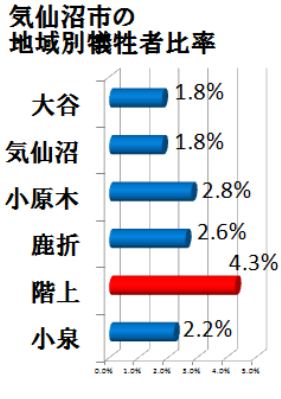
成果として得たこと	○東日本大震災による被災の反省から，津波災害に全般について正しい知識や十分な備え，日頃の訓練の充実を図ることができた。今年度のテーマである「自助・共助」のもと，「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習を実践することができたと考える。 ○１２月７日（金）１７：１８地震発生→津波警報発表 　生徒たちは直ちに地震に対する避難行動をとった。揺れが収まり，津波警報を聞くと，部活動で校内にいた５０名ほどの生徒が体育館に集合し，すぐに避難所設営を始めた。帰宅していた生徒たちも身の安全を確認した上で登校し，避難所設営に取り組んだ。避難者は３００人を超えていたが，避難者カードの配布や避難者一覧表の作成・貼付，畳や椅子による避難スペースの確保，毛布の配給，救護スペースの設置など，生徒たちは訓練通り避難所設営などに率先して取り組んだ。
全体の反省･感想・課題	○今年度の本校の防災学習計画において，大きな達成度が見られたと感じている。引き続き「自助」を基盤とし，「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習の実施や地域との連携継続が大切である。さらに，「正常化の偏見」「楽観バイアス」への執着とも考えられる災害の風化防止に努めなければならない。そして，将来世代に向けてより良い魅力的な地域社会に再構築するために，復興教育にも力を入れていく必要があると考える。 ○学校は避難所としての設備が整っているとはいえない。休日や夜間など教職員の勤務時間外における対応についても現実的には難しいと考えられる。備蓄はあるが，「誰が，どのように管理して，災害時にはどう対応するのか。」などといった施設・運営面の課題がある。さらに，車での避難者用駐車場の確保や避難道の建設など，市の防災計画（地域の整備計画等）の実施が急務である。
今後の継続予定	○本校の防災学習は「私たちは未来の防災戦士」をテーマに平成１７年度から始まった。学校を起点とした地域の防災意識の更なる高揚や，将来の防災リーダーとしての資質や能力の育成等をねらいとしている。 　震災の反省を踏まえ，「自助」を基盤に「自助」「共助」「公助」をテーマとした防災学習を１年ごとに実施し，３年間で１つのサイクルにすると共に，「知る・備える・行動する」を視点とした実効性のある防災学習に現在は取り組んでいる。 　次年度のテーマは「自助・公助」である。災害についての正しい知識や理解，災害発生時・後に必要とされる判断力・技能を身に付けると共に，公的機関の役割やＮＰＯ等の活動内容などについて学習する予定である。様々な状況下で地域の方々と避難訓練を行ったり，震災直後に公的機関がほとんど機能しなかったことを踏まえて，災害時に「公的機関の支援がくるまでにできること」という条件のもと避難所設営・運営訓練等に取り組んだりすると共に，「地元の復興に向けて中学生ができること」などについて学習していく計画である。

7．自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。







なぜ津波犠牲者の割合が高かったのか
～危機意識の問題？ ～

【被災者の声から】
- 津波が来ても大したことないと思っていた。
- これまで津波がここまで来たことがなかったので自分の家は大丈夫だと思っていた。
- 海がこんなに近いとは思っていなかった
- 津波が来たら逃げようと思っていた。
- 逃げなくても何とかなると思っていた。　など

なぜ津波犠牲者の割合が高かったのか
～認識不足等の問題？ ～

【被災者の声から】
- 居住地の海抜を認識していなかった。
- 過去の津波被害を正しく認識していなかった。
- 津波を甘くみていた。(勝手な思い込み)
- 自分で判断せず、周りをみて判断してしまった。
- いざとなったら、車で逃げれば大丈夫だと思っていた。　など

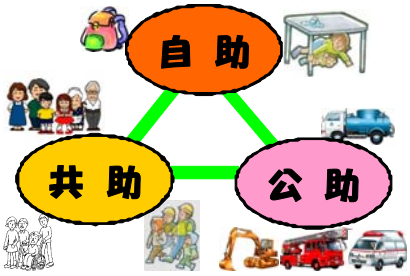
なぜ津波犠牲者の割合が高かったのか
～家庭の事情？～

【被災者の声から】
- 家族を心配して家に戻った。
- 家族が仕事先から家に戻るのを待っていた。
- 避難の途中、大切な物を取りに戻った。
- 老人がいたので、車で避難して渋滞に巻きこまれた。
- 家の近くにある「市が指定した避難所」であれば津波が来ても大丈夫と思っていた。　など

（自由記述：１／３）

震災前の防災学習

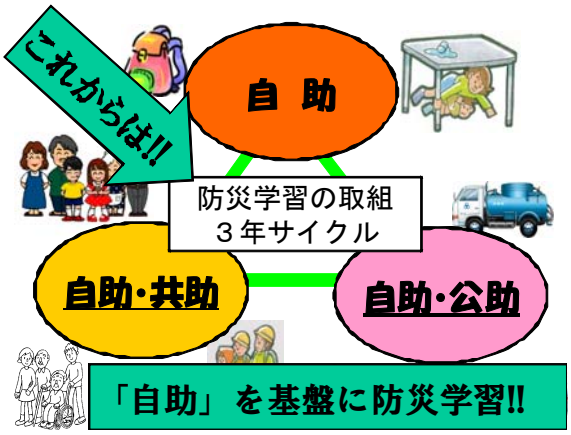
◎発生が確実視されていた宮城県沖地震津波に備え、平成17年度から取り組む。



防災学習の見直し

1. 防災意識も低くはなかったのに多くの地区民と卒業生３名が犠牲になってしまった。
2. 生徒が学校にいる時間は１日の３分の１程度であり、多くの時間を地域や家庭で過ごす。
3. すでに「千年に一度の大災害はしばらく来ない」とか「今回大丈夫だったので次も大丈夫」という「風化」とも思える声が聞かれる。

➡ 正常化の偏見（バイアス）？



今年度のテーマは・・・

[redacted]

「知る」　：正しい知識と技能を身につけておかなければ、いざという時に的確な判断ができない。
「備える」　：正しい知識を得て、どんな備えが必要かを考え、日頃から準備しておく必要がある。
「行動する」：頭で理解しただけでは行動に結びつかない。訓練でできないことは本番でもできない！

○仮設住宅居住者との合同避難訓練

○緊急地震速報を活用した ショート避難訓練

○学年毎防災体験活動

第１学年
＜津波体験館見学＞

第２学年
＜応急手当・救命講習＞

第３学年
＜小学生への防災啓発活動＞

（自由記述：２／３）

※階上中学校区防災教育推進委員会

○各自治会による一次避難訓練

○避難所設営訓練

○防災学習発表会

○標高調査!!防災マップ作成!!

12月7日17:20頃　津波警報発表

訓練通り の成果!!

（自由記述：３／３）